新春のご挨拶

参議院議員
山谷　えり子

皇紀二千六百八十四年、令和六年が幕開けとなりました。

偕行社の諸先輩方ならびにご家族の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。本年4月からは、陸修偕行社として新たなスタートを迎えられる由、心よりお祝い申し上げます。

新年を迎えるにあたり、五穀豊穣、天下泰平、国土安穏、万民豊楽を祈念いたします。

甲辰（きのえ・たつ）の本年は、これまでの殻を破りつつ上昇し勢いを増しながら成長していく年と言われています。

世界が活気を取り戻しつつある中で、わが国も着実に前進しています。

日経平均株価はバブル期以来、33年8カ月ぶりに高値を更新、30年ぶりとなる3・58％の賃上げ、そしてコロナ禍で途絶えていたインバウンド需要も急回復しています。

しかしながら、急激な物価上昇の影響などから、足下の賃上げが物価上昇に追いつかず、民間消費は減少していて景気回復を体感するにはもう少し時間が必要と思われます。

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ情勢をはじめ、わが国周辺でも一方的な現状変更の試みや、北朝鮮による核・ミサイル開発など、安全保障環境は年々厳しいものとなっております。

国民の生命と財産を守りぬくため、令和4年12月に「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」の安保関連三文書が決定されました。これに基づき、防衛費を国内総生産（GDP）比で2％に倍増し、昨年度から五年間の総額で前回計画の1・5倍となる43兆円に増やすこととなりました。

世界が複雑化している現在、国家として法の支配に基づいた自由で開かれた国際秩序を守っていくことをわが国が先頭にたって形成していかねばなりません。

そのためにも憲法改正により自衛隊をきちんと憲法に位置づけ、自衛権についても言及していくことが国民の生命と財産を守る第一歩であると考えます。

そして誰もが〝明日〟に希望が持てる社会となるよう私も懸命に働いてまいります。

結びにあたり、国家の安寧と皆様のご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭の辞

参議院議員
佐藤　正久

新年あけましておめでとうございます。

２０２２年12月に安全保障３文書が改訂され、日本の防衛戦略は大きな転換点を迎えました。その一つの例が、昨今取り沙汰されている防衛装備移転の問題です。

以前は武器輸出三原則によって防衛装備の国外への移転は不可能でしたが、現行の防衛装備移転三原則では、シーレーン防衛の観点から、救難、輸送、警戒、監視、掃海の５類型に限って国外への移転が許されています。そして、現在はこの５類型の撤廃あるいは類型追加の議論が国会や与党内で行われています。

５類型が見直されれば、防衛産業が活性化して、その基盤が強化されます。そして、政治的には防衛装備の移転を通じ、政府が主体的に他国との関係を強固にできます。

ウクライナ戦争の勃発以来、安全保障面での国際的な協力関係の構築が非常に重要となっています。防衛装備の輸出制限の緩和は政府が明確な意志をもって主導するべき重要事項です。

通常は、政府が国会へ意思表示をしたうえで与野党の議論の積み重ねを経て法案を成立させますが、今回は、与党内で論議して政府に報告するという全く違ったやり方なので政府の意志が見えづらいのかもしれません。しかし、「今日のウクライナを明日の日本にしてはいけない」という岸田総理の危機感からすれば、議論の進展は待ったなしの案件であるはずです。

台湾有事は日本有事、その蓋然性が格段に高まった現在の懸念は、有事発生の際に世界は日本に軍事支援をしてくれるかということです。外交関係の基本はギブ・アンド・テイクです。普段から相互に武器を融通し合うことで外交関係は強化され、それが抑止力となり、有事の際には頼みの綱となります。

「自分からはあげないけれど、いざという時に必要な物は全部ほしい」という姿勢は国際社会では通用しないことを肝に銘じ、ギブ・アンド・テイクで各国が互いに守り合う態勢の構築を日本は目指すべきでしょう。